

令和6年度 大阪府立羽曳野支援学校 第1回 学校運営協議会

開催日時	令和6年7月12日（金） 10:00～11:30
開催場所	本校 図書室
出席者	大堀委員、亀田委員、中條委員、平賀委員、前田委員
出席者	東野校長、岩田教頭、井川教頭、嶋本事務長、 和田首席、松山首席、大林首席、辻本教諭
傍聴者	なし
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校運営協議会次第 ・ 学校運営協議会実施要綱 ・ 委員、事務局名簿 ・ 令和6年度 学校経営計画 ・ 校内プロジェクト事業1、2活動報告 ・ 令和7年度教科用図書選定理由書 ・ 学校案内リーフレット
備考	

議事等（次第順）
<ol style="list-style-type: none"> 1 学校長挨拶 2 学校運営協議会委員の紹介、事務局員の紹介 3 令和6年度羽曳野支援学校運営協議会 会長、副会長選出 4 【協議】 <ol style="list-style-type: none"> ①令和6年度『学校経営計画』を踏まえた学校運営の充実について 5 【連絡報告事項】 <ol style="list-style-type: none"> ①令和6年度の活動について ②校内プロジェクト事業について ③令和6年度及び令和7年度使用教科用図書の選定について 6 意見交換 7 閉会の挨拶

協議内容・連絡報告事項等

【協議】

①令和6年度『学校経営計画』を踏まえた学校運営の充実について（校長）

令和6年度学校経営計画については、令和5年度第3回学校運営協議会で提示した通り。現在どのような形で進んでいるかを説明させていただく。

『中期目標』の「1 児童生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びの充実」はしっかり1人1台端末が使えるように、また、発達段階に応じたキャリア教育の充実を図っていきたい。「2 府立学校として、センター的機能の新たな発揮に取り組む」については、地域校での不登校児童生徒に対して本校ができることとして発達障がいである可能性のある児童生徒に対する支援やアセスメント方法の研究・実践に取り組むためにプロジェクトチームを立ち上げ進めているところである。また、ICT活用を通して校内授業及び原籍校復帰に向けた取り組みにオンライン授業等を積極的に取り入れ、羽曳野支援に転籍しない児童生徒が在籍校とオンライン授業でつながる環境づくりをしていくにあたり、オンライン授業についてのマニュアルの作成を進めており、ICTの苦手な先生でもこのマニュアルを見ればうまくつながれるというようなものにしていきたい。「3 安全で安心な学校生活をおくることができる学校づくり」については病院との連携の中で本校の教職員がどう考えてどう動くかを悉皆研修として防犯訓練やさすまた研修を実施する。「4 教職員の働き方改革」は効率よく子どもたちの教育の質に影響がない形でどれだけできるか模索している。

（委員）

- ・病気と対峙し生きていく（社会の中で活動する）力をどのようにつけていくか、また、命には関わらないが社会不適応をきたす病気の方々が成人期にどういう問題があるのか明確になってきている中で、疾患特異的な対応を一緒に考えていただきたい。そして、一部ではあるかもしれないが不登校とも関わっているかもしれないのでよろしく願いしたい。
→本校は各分教室において子どもたちの病気の状況に応じた自立活動に取り組んでいる。退院後自分の身体と向き合って生きていけるよう、より個に応じた自立活動に取り組んでいくために全教職員で共有するとともに、病気療養児に対する自立活動を羽曳野支援学校として再確認していきたい。そのためにも、こういったところを入院中に育てていけばよいか病院関係者の方々とともに一緒に考えていきたい。

【連絡報告事項】

①令和6年度の活動について

学校（分教室）紹介

②校内プロジェクト事業について

PT1：近年増えている不登校児童生徒には、発達障がいや認知能力面の課題が背景になっている場合がある。そのような傾向がみられる児童生徒は本校にも多数在籍しており、そのような子たちへの必要な支援やアセスメントを行っていけるようになるこ

とを目的に活動している。

PT2：オンライン授業やオンデマンド配信等への支援を主において活動している。現在はマニュアルを作成しているところである。今後、校内で試行し、その際出てきた課題を踏まえてマニュアルをバージョンアップしていきたい。また教員のスキルアップを図っていきたい。

③令和6年度及び令和7年度使用教科用図書を選定について

【意見交換】

(委員)

- ・小学校段階で不登校児童のアセスメントを情報共有しながら一緒にやっていたらありがたい。
→最終目標としているところがその部分である。地域の学校に行かせていただき、アセスメントをし適切な支援・指導法をお伝えできればと考えている。
- ・コグトレ等の話もあったが、子ども自身にも強みと弱みを理解させて行動させることが大事である。また、分教室の様子を聞かせていただき、長年委員をしているが入院している子どもたちの質も変わってきていると感じた。